

2025 年度 8 月 栃木県生協連 定例報告

1. 機関会議等

● 7月 5日(火) 第2回 定例理事会・監事会

【議決事項】

第 1 号議案 「会費規定」一部改定 承認の件

第 2 号議案 専決事項 承認の件

【協議事項】

(1) 栃木県生活文化スポーツ部くらし安全安心課との意見交換会について

(2) 総会の振り返り（会場、所要時間、運営内容、議事録の件）

【報告事項】

(1) 財政検討委員会報告

(2) 「月度の定例報告」及び月次決算報告

・「沖縄戦跡視察研修」のご案内

～沖縄の声を聴き、戦後 80 年を考えるきっかけに～

(3) 「たすけあい奨学制度」のご案内

(4) 今月の注意喚起

(5) 日本生活協同組合連合会中央地連報告



2. 行政関係

● 7月 14日(月) 第34回 とちぎ食の安全・安心推進会議（参加委員：塚原副会長理事）

本審議会は、「第4期基本計画の進捗」および「第5期基本計画の骨子案」についての報告と協議が主な会議次第。前者は、施策目標にそった項目ごとに設定されているKPIをもとにした到達と振り返りが報告されました。進捗状況は、年次の目標値をコンスタントに達成、または最終年度（令和7年）の到達目標値において達成見込みとなっている項目がほとんどで、“見える化”を図りながら基本計画の具現化がすすんでいることが確認できました。後者は、次期計画の策定趣旨として、サプライチェーン全体の食品の安全性と信頼性を一貫して確保する施策は概ね前期を踏襲したものとなっていますが、新たに将来を見据えた食の安全を目指すものとすることが加えられています。今回提示された骨子案は、前期同様に3つの基本目標から構成されており、「将来にわたる食の安全の確保」が新規目標として掲げられ、持続可能な社会を実現する視点からの施策が項目立てされています。骨子案についての本格的な論議は、2026年1月（会日は未定）に開催される次回会議となる予定です。

● 8月 5日(火) 栃木県生活文化スポーツ部くらし安全安心課との意見交換会

くらし安全安心課から課長をはじめ、消費者行政推進室から4名、生活・交通安全担当2名の方が参加し、栃木県生協連の定例理事会メンバーと意見交換会を開催しました。生活・交通安全担当者から「ながら見守り」について出前講座を含む推進に関する説明を受けた後、消費者行政推進室より、「第3期栃木県消費者基本計画の骨子（案）」、生協と連携した取り組みとして「高齢者の消費者被害防止への協力」、「消費生活相談員の担い手確保」等について報告がありました。栃木県生協連からは、各会員の活動報告の他、ながら見守りの登録や高齢者の消費者被害に関する質問、第3期栃木県消費者基本計画の骨子（案）や相談員に関する要望などが出され、活発な意見交換の場となりました。

● **8月 6日(水) 令和7年度 第1回栃木県プラスチック資源循環推進協議会** (参加委員：竹内顧問)

プラスチック資源循環の推進に向け、学識経験者、製造等事業者団体、消費者団体、処理業者団体、行政機関等が構成委員となり協議会が開催されました。国家戦略に位置づけている資源を再利用して有効活用するサーキュラーエコノミーの意向について、栃木県の現状及び課題の報告がされました。各委員からは資源循環に係る取り組み及び課題、県に対する期待や要望等が出されました。栃木県のプラスチック対策事業については、市町の勉強会・出前授業・森里川湖清掃活動、ボトルt o ボトルリサイクルパートナーシップ協定、栃木県リサイクル製品認定制度等、プラスチックごみ対策の取り組み報告がありました。取り組みに対する課題や問題点についての共有と意見が出されました。

プラスチックごみ削減に向けて関係機関が情報共有を図る「県プラスチック資源循環推進協議会」(会長・山田洋一宇都宮大名誉教授)の本年度第1回会合が6日、県庁研修館で開かれた。資源を再利用し有効活用するサーキュラーエコノミー(循環経済)への移行に向けた本県の現状や課題について共有した。

同協議会は2019年度施行の条例に基づき有識者や関係団体職員ら計8人で構成する。

国はサーキュラーエコノミーを国家戦略に位置づけており、県も資源循環の取り組みを促進している。

会議では、県が製造業者らを対象に昨年度実施したプラスチックのリサイクル状況などのアンケート結果を共有。県によると製造業者とリサイクル業者間で、情報共有の不足などの課題が見つかった。

加えて、会議では委員から「製造業者とリサイクル業者とのマッチングサービスのような支援がほしい」との声も上がり、県として今後、業者同士のマッチング支援の検討を進めていくことなどを確認した。

8月7日 下野新聞

● **8月 8日(金) とちぎカーボンニュートラル実現会議** (参加委員：竹内顧問)

カーボンニュートラル実現に向けた、各分野(栃木県全体、産業、業務、交通、家庭、非エネルギー)のロードマップの進捗状況、今後の方向性、2050年カーボンニュートラル実現に向けたこれまでの栃木県の取り組みについて報告がありました。出席者から各界の現状や課題の報告、栃木県に対しての要望等の意見が出されました。国立研究開発法人産業技術総合研究所連携オフィサーからは、各界の取り組みと課題を把握し、カーボンニュートラルを実現するため、先進的な取り組みを期待していると報告されました。栃木県からは、「ニュートラフレンズ募集」、「うちエコ診断の推進」についての協力依頼がされました。

温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラル(CN)の2050年実現に向け県は8日、県公館で県内各界代表者の意見を聞く「とちぎカーボンニュートラル実現会議」の25年度初会合を開いた。

経済団体や住宅、交通、電気、ガス業界などの代表委員ら約20人が出席した。会長を務める福田富一知事は「将来にわたって持続可能な社会の実現に向け、各界の現状や課題などを聞き、取り組みのさらなる加速化につなげていきたい」とあいさつした。

会合ではCN実現に向けた県のロードマップ(行程表)の進捗状況が共有されたほか、事業者と接点の多い金融機関などと連携して中小企業の脱炭素を促進していくといった今後の方向性が示された。

出席委員からは「取引の際にCNに取り組んでいることが条件になる場合があるが、コストや人手の面で課題がある」、「環境に配慮した飼料を使う場合に支援してほしい」などの意見があった。(仁平裕人)

8月9日 下野新聞

● **8月18日(月) 第20回 うつのみや食育フェア 第2回運営部会** (参加委員：赤羽専務理事)

食に関する知識の普及と体験の機会を提供することで、食育の重要性について啓発するため、10月19日(日)に宇都宮ライトキューブ、ライトヒルで開催されます。今回の運営部会では、主に出店ブース、ステージプログラム、広報、公募出展申込団体の審査結果について、質疑と要望が出されました。商業施設や駅などを目的とした集客が見込めるため前年同様3万人の来場計画をしています。

- **8月20日(水) とちぎ食と農アクションプロジェクト推進協議会** (参加委員：赤羽専務理事)

食と農業の持続性確保に向けた県民参加型運動を喚起するため昨年、推進協議会が設置されました。令和6年度の栃木県と構成団体の取り組み、令和7年度の栃木県の取り組み、食と農業をめぐる情勢・適正な価格形成に向けた国の取り組み、今後の推進方針について共有し、質疑を行いました。現状と課題、推進体制、推進ステップ、将来の食と農業を支えていく世代である10代～40代を重点的なターゲットとすることなどを推進方針としました。

県は20日、県総合文化センターで「とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進協議会」を開き、2030年までの6年間の期間とする同プロジェクトの推進方針を決めた。10、40代を重点ターゲットに生産者や消費者などの相互理解を深め、買ひ物や食事で県産農産物を選ぶといった行動変容を促すことを目指す。協議会は県内市町や農業団体、消費者団体などで構成。担い手不足や気候変動など農業を取り巻く情勢が変化する中、食と農業の持続性確保に向けて県民参加型運動を喚起しようと昨年8月に設置された。これまでも交流サイト(SNS)での情報発信や地産地消をテーマにしたレシコンテストを実施してきたが、推進方針を決めることで今後目指す方向性を具体化した。

会議には約70人が出席。方針では「将来の食と農業を支えていく世代」として10、40代を重点ターゲットに設定。情報発信などを通して生産、流通、加工、消費などあらゆる立場の人が応援し合う環境づくりに取り組むとした。

会長の広川寛之(ひろがわ ひろゆき)県農政部長は「コメの高騰など今までになく農にスポットが当たる中、価値観を共有することが大事」と話した。

8月21日 下野新聞

3. 防災

- **8月 5日(水) 栃木県・宇都宮市総合防災訓練 第3回全体会議**
- **8月 8日(金) 栃木県・宇都宮市総合防災訓練 参加団体ミーティング**

8月31日(日)に開催する総合防災訓練の全体会議が栃木県庁にて行われました。防災訓練前の最終全体会議となるため、資料を元に各訓練の参加団体ごとに手順や内容等の確認が行われました。栃木県生協連の参加団体(パルシステム茨城 栃木、よつ葉生協、とちぎコープ)は8日にWEBで最終確認会議を開催し、参加訓練の内容や注意事項について確認を行いました。

- **8月31日(日) 栃木県・宇都宮市総合防災訓練 (会場：宇都宮市道場宿緑地)**

今年は、宇都宮市と栃木県が合同「総合防災訓練」を行いました(開催会場は宇都宮市道場宿緑地)。熱中症予防の対策として、朝8時から10時までの2時間の訓練時間に短縮し、全35の訓練を行いました。

栃木県生協連は、会員生協の生協パルシステム茨城 栃木、よつ葉生協、とちぎコープ生協の3生協と共に、「緊急通行車両標章交付訓練」「緊急物資の輸送受入れ訓練」に参加しました。



4. その他

- **8月28日(木) 2025年度コンプライアンス公開学習会 (Zoom参加)**

「取引先との契約について」、講師に野本夏生弁護士を迎え、契約トラブルの事例、契約を行うための基本的な知識の説明の後、業務上契約を行う際に留意すべき点などについてお話を頂きました。昨今の社会状況の変化と共に契約の内容にも変化があること、自動更新であっても定期的な見直しを行う必要性など改めて学ぶ機会となりました。(コープデリ連合会の公開学習会)

- **8月30日(土) 宇都宮市中央卸売市場開設50周年記念大会** (参加委員：赤羽専務理事)

宇都宮市と宇都宮市場協力会の主催で、栃木県知事、宇都宮市長、市場関係者が集まり、宇都宮中央卸売市場開設50周年記念大会が開かれました。市長からは「生産者と消費者をつなぐ大きな役割を果たしてきた。市民県民の台所として持続的に発展していけるよう取り組んでいく」と挨拶がありました。北関東で唯一の中央卸売市場で、現在、青果物と水産物の卸業者が1社ずつ、仲卸業者22社となっており市場の発展を祈念しました。

- **8月 4日(月)第3回 クリーンアップ・ウォーク (定期ゴミ拾い)**

地域への環境活動として、県連事務所付近と県道64号線から宇都宮駅東口付近までのエリアでゴミ拾い活動を行いました。

<目的>

- (1) 環境美化保全
- (2) プラスチックごみの海洋への流出を防ぐ、生態系配慮
- (3) リサイクル可能ゴミの有効活用、CO2排出削減



ネットワーク活動

1. とちぎ食の安全ネットワーク

- **8月 7日(木) 第3回とちぎ食の安全ネットワーク世話人会**

1. 学習会「日本漁業の現状（養殖業）を知る-2」
講師：宇都宮大学名誉教授 宇田 靖 氏
2. 7月15日開催 第1回とちぎ食の安全ネットワーク学習会アンケート結果について
3. 第2回とちぎ食の安全ネットワーク学習会について
4. 各団体からの活動報告、その他参考資料

栃木県生協連 2025 年 9 月度、10 月度の活動予定

2025 年 9 月 3 日 (水)

2025 年 9 月度予定	
1 日 (月)	栃木県消費生活安定対策審議会 クリーンアップ・ウォーク (定例ゴミ拾い)
2 日 (火)	第 3 回 とちぎ消費者ネットワーク幹事会
3 日 (水)	消費者カレッジ (宇都宮大学 動画撮影)
4 日 (木)	ユニバーサル就労ネットワーク栃木 定期会議
8 日 (月)	第 2 回 くらし部会 関東農政局 みどりの学習会
9 日 (火)	第 2 回 常務理事会
10 日 (水)	栃木放送番組審議会
19 日 (金)	消費者カレッジ (那須看護専門学校)
24 日 (水)	消費者カレッジ (足利大学 看護学部) 地域生協と中央労働金庫との意見交換会 日本生協連 中央地連 運営委員会
26 日 (金)	消費者カレッジ (栃木県立佐野東高等学校)
29 日 (月)	消費者カレッジ (栃木県立宇都宮中央高等学校 : 3 年 1 組・1 年 1 組)
30 日 (火)	第 2 回 とちぎ食の安全ネットワーク学習会
2025 年 10 月度予定	
2 日 (木)	第 4 回 とちぎ食の安全ネットワーク世話人会
7 日 (火)	第 3 回 定例理事会・監事会
16 日 (木)	消費者カレッジ (作新学院大学 : 栃木地域政策研究・スポーツマネジメント学科・経営学科)
19 日 (日)	第 20 回 うつのみや食育フェア
20 日 (月)	第 4 回 地域生協部会
21 日 (火)	子育てネットワーク
23 日 (木)	2025 国際協同組合年 栃木県実行委員会 第 6 回検討会
27 日 (月)	第 3 回 くらし部会
28 日 (火)	消費者カレッジ (小山北桜高等学校) 宇都宮消費生活講演会
30 日 (木)	第 1 回 くらし部会 学習会
31 日 (金)	日本生協連 中央地連 関東甲信越行政生協関係者連絡会

栃木県生活協同組合連合会